

杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

- 1・2面 “距離の近い” 学生と教職員
学長、2カ月にわたり全新生と懇談
成果あげる「学生塾」ほか
- 2・3面 杏林年代記
開設当初の外国語学部
- 3面 24年度優秀学生52名を表彰
新たに難関資格取得者等を表彰

- 4・5面 よい就職とは
杏林大生を継続採用する企業を訪問
- 5面 卒業生、在学生リレー
南スーダンで人道支援の景山さん
充実した留学生活に感謝の楊さん
- 6・7面 学部・大学院トピックス
- 8面 金田一教授の研究室
健康ひとくちメモ、数字でみる杏林大学

face to face 杏林だからできること

学生1人あたりの教員数が多い医学部。資格の国家試験に向けてマンツーマンの指導が行われる保健学部。入学と同時に全員が少人数制のプレゼミナールで学ぶ総合政策学部。1年次の基礎演習でクラス担任制をとる外国語学部。本学は学生数約5,000人の中規模校ということもあって、学生と教員が顔を付き合わせての教育がかねてから行われており、卒業生や在学生からは「杏林のいいところは学生と教職員の距離が近いところ」という声が数多く聞かれます。

“学生にとって教職員の顔が見える大学でありたい”と呼びかける跡見裕学長は、昨年秋から1年生との対話集会を始めました。学生が中心になって企画実施する正課外授業の「学生塾」では、学生支援担当の教職員が後ろで彼らを手伝います。与えられた課題を少人数のグループで解決する医学部独特の授業や就職活動を後押しする職員チームなど、今号では本学の「学生とともに創る杏林教育」の取り組みを紹介します。

1年生と学長の懇談会 大学生活について語ろう

face to face
杏林だからできること

全新生対象に 2ヵ月で20回懇談

1年生と学長との懇談は一昨年学長に就任した跡見学長自らの発案で昨年から始まりました。

杏林大学がこれからどう進もうとしているのか大学からのメッセージを伝えるとともに、学生はどのような大学生活を送っているのか、大学に何を期待しているのか、また困ったり悩んだりしていることはないかななどを直接聞き、学生たちの今後の大学生活に役立てようというのがその目的です。

昨年は東日本大震災という未曾有の大災害を受けて、学長が被災地のこども80人の作文集「つなみ」(『文藝春秋』2011年8月臨時増刊号)を多数購入して総合政策学部と外国語学部の1年生たちに配り、豊かさに慣れた生活を見つめ直すことの必要性や家族や友人など人とのつながりの大切さを呼びかけました。

2年目を迎えた今年は、5月・6月の2ヵ月間にわたり医学部と保健学部も含めた4学部の全新生全員(1,017人)を対象に懇談会が計20回行われました。

学長「部活・留学・基礎の学びを」

学生たちからは「学長が医師を目指したきっかけは?」「学長の座右の銘は?」など学長個人への質問とともに、「学生食堂の値段が高い」「図書館を24時間開放してほしい」などキャンパスのアメニティに関する要望が多く出ました。

跡見学長はこれらの要望や質問の一つ一つ答えるとともに、「体を動かすことは脳の活性化に極めて大切」「部活に積極的に参加し、留学にもチャレンジしてほしい」「医学部生は物理などの基礎教養科目もしっかり勉強してほしい」などとアドバイスをしました。

全国の大学でも学長が全新生全員と懇談するのは異例のことです。5月22日の外国語学部生との懇談の場には読売新聞社の大学教育問題の担当記者が取材に訪れ、6月29日の紙面でこの懇談を「退学率減少にもつながる取り組みだ」として紹介しました。



懇談会は大学が用意したサンドイッチや幕の内弁当を食べながらの、ランチョンミーティング形式で行われました。特に八王子キャンパスの3学部の懇談では、「3ヵ月がとても早く感じた」「有意義な4年間にしたい」という感想や、「バスの運賃が高い」「スクールバスを出してほしい」など通学環境に関する意見が相次ぎました。

1年生300人余にアンケート

杏林大学新聞編集委員会事務局は1年生を教える教員の協力を得て、懇談に参加した4学部の学生330名にアンケートを実施しました。

質問は全部で5問。質問1と2で懇談会の感想について尋ね、加えて質問3で“最近学生生活で「楽しい」「良かった」と感じたことは何ですか”、質問4で“在学中にチャレンジしたいことは何ですか”について聞きました。

[懇談会参加者アンケート] 対象：4学部の1年生330名 回収率：70.3% ()は学部	
<p>[質問1] 懇談会の感想は?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長は遠い存在と思っていたが懇談会で身近に感じられた(多数) ・大学を改善するためのよい取り組みだと思う(多数) ・様々な要望に応えようと努力する姿勢を見せてもらって嬉しかった(医) ・学長が医学生だったころの話や医師になって感じたことの話はとても参考になった(医) ・自分の意識を見直すことが出来た(保健) ・こうした機会は学生たちの士気が高まるのでいいと思う(保健) ・学生一人ひとりを見ようとしているのだなと感じてありがたかった(総合政策) ・もう少し学校に慣れたらもう一度学長と話せたらいいなと思った(総合政策) ・学生たちのやる気、向上心を高める大きなきっかけになると思った(外国語) ・自分の所属学科を知ってもらいたい機会になった(外国語) 	<p>[質問2] 印象に残った学長の言葉は?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の勉強をしっかりとやる。留学を経験してほしい。体を動かそう(多数) ・今のうちに無駄なことをした方がよい(医) ・今は物理が意味のないものに思えても、医師になるとその必要性がわかる(医) ・Be gentle(保健) ・何かスポーツをすると良い(保健) ・大学では色々なことを学べる。吸収できるものはしよう(総合政策) ・学歴社会ではない(総合政策) ・今を精いっぱい頑張る(外国語) ・常に目標を持つ(外国語)

質問3では「部活」と「親しい友人が出来た」ことが各学部共通して圧倒的に多く、特に外国語学部では入学直後に河口湖畔で行われた「フレッシュャーズキャンプ」を「楽しかった思い出」として挙げる学生が多く、このキャンプが友だち作りの大きなきっかけになっていることがわかりました。

また、「授業もアットホーム」「プレゼンで先生に褒められたこと」「留学生との交流」などを挙げており、大学生活に次第になじんでいる様子が窺われました。

質問4では、「英語をマスター」「留学」「各種の資格取得」などに次いで「ボランティア」を挙げる学生が多く、大学生になって社会に目を向け始めている様子も感じられました。

最後の質問5は、“入学して3ヵ月経ったいま、皆さんが感じていることや大学に伝えたいこと”でした。

「大学の授業は自主性を重んじるのだから感じた」「シラバスをしっかりと読み、考

えて履修登録しなければと思った」「他学部の授業をもっと受けられるようにしてほしい」という学業に関する感想や要望とともに、八王子キャンパスの学生からは「最寄駅から遠い」という交通アクセスに対する改善要望が数多く挙げられました。

跡見学長のコメント まず学長につきあってくださった学生諸君に、ありがとう、と言いたいですね。昨年はプレゼミの時間などで、総合政策学部、外国語学部の1年生諸君とお話しました。

今年度は全学部の全新生と食事をしながら話を聞かせてもらいました。積極的に発言する学生、やや内気な学生など、学部、学科ごとで全新生の諸君に微妙な違いがありました。いずれの全新生も明るく、未来への可能性を感じられました。

これらの学生をどのように伸ばしていくのか、私も教職員の果たす責任はきわめて大きいと思います。

学生ステーション 人間力を高める

face to face
杏林だからできること

学生が主体となって課外活動を計画・実施することで人間力を高めるのが「学生ステーション」での活動です。そのメニューは〈学園祭実行委員〉、〈各種ボランティア〉、〈八王子キャンパス学生塾〉、施設・旧跡等を訪ねる〈社会探究〉、八王子市にある大学に通う学生や市民の交流の場〈コンソーシアム学生委員会〉の5つで、教職員がサポートしながら学生の成長を見守っています。今回は〈八王子キャンパス学生塾〉を紹介します。

1、企画会議
各学部のメンバーが集まりテーマと講師を決める。次に、広報用ポスター作成班、当日の司会など役割を決める。



2、講師依頼
先生に企画と学生塾の概要を説明する。



八王子キャンパス 学生塾

4、実施 司会進行役の学生(右)



3、ポスター作成
学生支援課職員のアドバイスを受けながら学内掲示用のポスターを作成。



プレチュートリアル 考える力を養う

face to face
杏林だからできること



この日の課題は「睡眠」。「1日24時間はいつ身につくのか」「不規則な生活リズムはどのように修正されるか」「寝だめは意味があるか」「一夜漬けについて」など各自の調査結果を発表し、意見交換をする。それを見守る生物学 松田宗男教授(写真右)

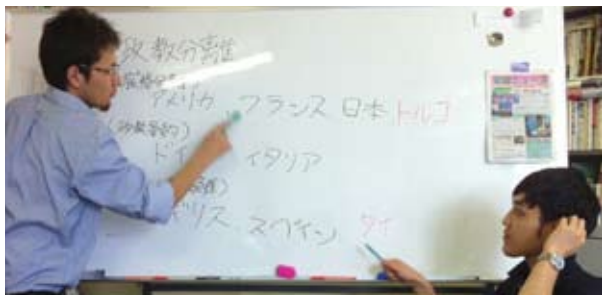
医学部では、1年次に基礎医学に関する基本的知識を習得するためのプレチュートリアルが行われます。学生たちは少人数のグループに分かれ、与えられたある課題を検討し、思考を重ねながら掘り下げ、解決していきます。この中で教員はチューターとして、グループ学習を円滑にすすめ、学習課題を適切に把握できるように援助を行います。

普段の講義や実習と異なり、チューター役の教員は、学生一人ひとりの顔がより近く見える位置から、アドバイスやコーチング、つまり直接的な知識を授けるのではなく、課題解決に至る重要な糸口を示唆します。

3年次には、臨床医学教育を目的として、課題に対する問題点を自ら見出し、討論を重ねて解決していく、「チュートリアル」に発展します。

総合政策学部岩隈研究室 毎日が オフィスアワー

face to face
杏林だからできること



ホワイトボードに考えをまとめる遠藤さん(左)と吉田さん。

岩隈道洋 准教授
総合情報センター長
専門は憲法、行政法、情報法制など



基本的に研究室は毎日開放しています。訪れるのはゼミナールの学生に限らず、訪問理由も様々です。公務員のOBが訪ねて来たときは、公務員希望の学生が集まりました。この研究室で知り合いになる学生もいて、ちょっとした交流の場になっています。学生たちには在学中に学生、教職員と積極的に関わり、会話によるコミュニケーションをしてもらいたいと思っています。

遠藤光 (総合政策学科4年)

初めて岩隈研究室を訪ねたとき、先生と先輩達が法律や社会問題について熱く議論しているところでした。はじめは話についていくので精いっぱいでしたが、議論に加わることが楽しくなり、迷わず岩隈ゼミを選びました。

吉田雅人 (総合政策学科4年)

国際政治のゼミに所属していますが、以前進路に関する相談を岩隈先生にしたとき、親身になってアドバイスをくださいました。岩隈研究室には、勉強から個人的な悩みまで先生に相談に乗ってもらいたい学生が絶えず訪れています。

学生塾をとおり見られる学生の成長

学生支援センター長 原田奈々子 (総合政策学部教授)

「学生塾」とは

学生塾は、オフィスアワー(指定の曜日時間に教員が研究室に待機し、訪問する学生から相談を受ける仕組み)を活性化するために考案されました。

これまで、研究室の敷居が高く感じられるのか、学生が気軽に研究室を訪れることはあまりありませんでした。そこで、研究室の外で教員と学生が接することができ、さらに職員も交えた集いの場になればよいという発想から、学生塾は生まれました。

「学生塾」が目指すもの

ただ学生や教職員が集うだけでは、会話は滞りがちです。学生自身が関心を寄せるテーマを設定し、それについて教員がレクチャーするのが学生塾です。学生の関心そのまま講義内容に反映されるため、講義後は学生と教員の活発なやり取りも想定されます。

こうした会話を通じて人と人とのつながりができてきます。教職員がサポートしながら学生が企画から実施まで行うことで計画力や実行力を鍛え、講義で知的要求を満たし、同時に学生と教員、学生同士の交流の場となることを期待しています。

目を眩(め)る学生の成長

これまで4回の塾を実施しました。企画会議では毎回学生たちから、積極的に意見やアイデアが出てきます。ポスター作り、当日のアンケートの配布回収、塾の進行など、各人が責任をもってこなしています。彼らはテーマ選びからスタートし、教室に多くの学生を迎え、塾を無事に終えるまでの一連のプロセスを経験し、回を重ねるごとに成長しています。

何より毎回の成功体験は、彼らの大学時代のよい思い出になります。またこれから先、彼らが社会人となり、何かを企画しなければならなくなったとき、この経験は生きてくるでしょう。

キャリアサポートセンター 心強いアドバイス

face to face
杏林だからできること

嶋田彩花

(総合政策学部総合政策学科)

4年の4月に志望先を信用金庫に絞り、15社にエントリーしました。よい返事がもらえず、悩みましたが、試験や面接が終わるたびゼミの阿久澤利明先生や山川さんに報告し、次の段階の対策を練りました。

エントリーシートに自分の短所として「ケアレスミスが多い」と記入し、金融機関志望者として致命的なミスをしてしまった時、慌てて山川さんに相談しました。短所を自覚し、日頃から十分気をつけていることを気づかせてくれるアドバイスをいただき、なんとか面接時の口頭説明を乗り切りました。



キャリアサポートセンターの山川係長と石川さん(左手前)と嶋田さん

石川綾香

(総合政策学部総合政策学科)

山川さんのアドバイスで3年の夏休みから就活ノートをつけ始め、自分史の作成や関心のある業界の新聞スクラップなどに取り組みました。山川さんに定期的にチェックしてもらうことによって、自分の考えが整理されてきました。

公務員か民間企業か悩んでいた時、山川さんが、「長所は粘り強さだったよね」「最後は自分の考えが大切。どちらを選んでも全力で支えるから安心して選んで」と。この言葉は今でも忘れません。地元 静岡の企業に内定し、両親も喜んでくれました。

キャリアサポートセンター係長 山川佳高

それぞれの学生に合った就活スタイルがあると思います。嶋田さんは自分で何でもなくてというタイプ。ただ行き詰ったときはいつでもセンターにくるよう伝え、見守っていました。慎重で一步を踏み出すのに少し時間がかかるタイプの石川さんには就活ノートを作りながらじっくり就活に取り組むようアドバイスしました。

夏休み中も学生たちは就職相談や面接練習に通ってきており、当センターでは学生がよりよい方向に進めるよう、スタッフ全員が全力でサポートしています。



学園創立50周年へ

クロニクル

杏林年代記

外国語学部



杏林学園は1966年に開学し、2016年に50周年を迎えます。「杏林年代記」では、懐かしい写真とともに、先人達の業績を振り返ります。

第4回となる今回は、1988年に開設した本学で最も新しい学部 外国語学部に関するエピソードを紹介します。



本学学部の中で最も新しい外国語学部は、1988年(昭和63年)、初代学部長伊藤清司先生(中国民俗学、2007年逝去)のもと、さまざまな大学から教員を迎え誕生しました。

開設時の学科編成は英米語学科、中国語学科、日本語学科の3学科で、初年度の入学者(第1期生)には287名の前途ある若者達が集結しました。

時代の変遷とともに、機に臨んで社会のニーズに対応するため、度重なる改組が行われました。世界各国に広く通じ、国際的な感覚を持った人材を育成するという目的は現在の教育理念にも通じ、また受け入れてきた留学生も数多く、その国籍はアジア諸国を中心に実に多彩なもの

になっています。

1984年に開設された社会科学部(現・総合政策学部)に続く2番目の文系学部の創立となりました。これで医学部、保健学部(自然科学領域)・総合政策学部(社会科学領域)・外国語学部(人文科学領域)が本学に揃ったことになり、複合大学から総合大学へと発展を遂げることとなります。中でも医学部を有する私立の総合大学は全国でも数少なく、その存在は稀少なものとなっています。

外国語学部誕生に際して哀しむべくは、外国語学部第1期生をまさに迎えんとする1988年2月21日のこと、創立者である松田進勇・初代理事長が急逝されたこ

◀1988年当時の八王子キャンパス全景。E棟・K棟やガーデン丘等はまだなかった。左上Y字型の校舎が外国語学部D棟

杏林大学優秀学生

成績優秀学生 40 人、特別奨励学生 12 人を表彰

平成 24 年度杏林大学優秀学生 52 人（成績優秀学生 40 人、特別奨励学生 12 人）が決まりました。成績優秀学生は 2 年生以上の在籍学生で前年度の学業成績が最も優秀な学生として各学部各学科・各学年の 1 名が選ばれます。今年度新たに設けられた特別奨励学生は、2 年生以上の学生で、前年度中（最終学年生においてはその年度）に各学部各学科が別に定める難関資格・検定等の合格者・高得点者のほか、課外活動、ボランティア等において顕著な実績を残した学生が対象です。表彰された学生の皆さんの中から 4 人の学生に話を聞きました。

〔成績優秀学生の皆さん〕 () は学年
 医学部 村上諄 (2)、長堀克哉 (3)、盧昌聖 (4)、林涼子 (5)、小林誠 (6)
 保健学部 大樂萌子 (2)、嘉瀬友子 (3)、首藤亜紀 (4)、土井里歩 (2)、角田星来 (3)、畑野智子 (4)、藤本小夜 (2)、井瀧まりや (3)、岡田直美 (4)、河又麻菜美 (2)、三上慶大 (3)、原田晋太郎 (4)、高橋勇人 (2)、千々木大輔 (3)、依田将浩 (4)、佐藤舞 (2)、児玉優太 (3)、大西未紗 (4)、佐々木絢子 (2)
 総合政策学部 藤沢慎也 (2)、高原彪吾 (3)、山田直輝 (4)、山田花菜 (2)、飯沼和也 (3)、梅桂 (4)

外国語学部 根上千鶴 (2)、佐々木勝教 (3)、佐藤礼佳 (4)、村上大介 (2)、王雪 (3)、水野柚美 (4)、森山英弥 (3)、生方明日香 (4)、芳賀木春 (2)、岩元菜緒 (3)
 〔特別奨励学生の皆さん〕
 医学部 宇野枢 (6)、桑原晴樹 (6)、幾瀬樹 (6)
 保健学部 宇佐美直己 (4)、熊谷千実 (4)、國分万記 (4)、佐々木麻衣 (4)、高橋裕明 (4)、井上泰道 (4)
 総合政策学部 廣田啓介 (4)
 外国語学部 李超 (3)、喬亜彬 (3)

成績優秀学生

人と向き合える作業療法士に

保健学部
 作業療学科 2 年

ささき あやこ
佐々木 絢子



と思っています。入院した祖母が作業療法の訓練を受けているところを見てから、人の支援、手助けができる作業療法士になりたいと思うようになりました。

授業や人間関係など難しいことも多いですが、日々の積み重ねが私を作る要素になると思うと、頑張ろうという意欲が湧きます。技術、知識、思いやりに加え、人としてしっかり向き合える作業療法士になりたいです。

復習は、授業で扱った内容をテキストと照らし合わせて要点をノートにまとめています。その際、テキストの図や表をコピーをして貼り付け、わかりやすく作っています。

2 年になると専門的な授業も多くなります。脳のどこが障害されて、何が出来なくなってしまうかを明らかにする「認知機能」に関する授業などは興味深いです。

以前から漠然と医療系の職業に就きた

保健学部作業療学科 **河野 真准教授**から

未経験だった吹奏楽に大学生になってから取り組むなど、割と大胆な挑戦に、しかしあくまで自然体で臨むのが佐々木さんです。「さりげない挑戦者」という印象でしょうか。その個性は学業にも活かしているようです。これからも一層の個性の発揮を期待しています。

特別奨励学生

“やり遂げる”気持ちを忘れずに

(平成 23 年度東京新大学野球連盟で首位打者を獲得)

総合政策学部
 総合政策学科 3 年

ひろた けいすけ
廣田 啓介



杏林大学が所属する東京新大学野球連盟 1 部リーグには多くの強打者がいるので、その中で首位打者・ベストナインを受賞できたことは大きな自信になりました。

勉強も部活もというのが杏林大野球部です。大変ですが、とても充実しています。「経営組織論」の授業で、個人では成し遂げられない仕事や大きな目標も、組織で取り組めば達成できると学びました。部活動にも通じる点で興味を持ちま

した。杏林大学でプレーする機会は少なくなってきました。成績を残すとともに、皆が伸び伸びプレーできるチーム環境を先輩に引き継ぐことも大切な役割だと思っています。

野球で学んだ「挨拶」「気配り」、怪我や成績不振による挫折を乗り越えられた「やり遂げる気持ち」を忘れず、周りから信頼される人間になりたいと思っています。

硬式野球部 (学生支援課調査役) **荻本 有一監督**から

廣田君が野球に取り組む姿勢は真面目で、一生懸命です。バットコントロールが非常に優れていて、どのコースに来た球にも対応できますが、それは普段から人より多く素振りをしているからです。持ち前のがんばりで、これからもチームのみんなを引っ張ってほしいです。

特別奨励学生

夢は「貧しい国で医療活動」

(学会で発表奨励賞を受賞)

医学部
 医学科 6 年

いくせ たつき
幾瀬 樹



国家試験と平行して、アメリカの医師免許取得にむけて勉強中です。

松田剛明副理事長先生の紹介で今年 5 月、シカゴの NorthShore University HealthSystem Evanston Hospital で 1 カ月間実習をしました。医療の制度や体制、医学生の様子など日米で異なることを体験してきました。

海外での活動も視野に入れながら、臨床と研究の経験を積み、最終的にはここに述べた方向に進みたいと考えています。

学会発表 (平成 24 年 3 月 日本胸外科学会関東甲信越地方会) という貴重な機会をくださった心臓血管外科の窪田博教授、発表論文を指導してくださった高橋雄先生や医局の先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

将来は貧しい国に医療を供給する国境なき医師団のような活動をしたいと考えています。夢に一步近づくために、様々な民族と触れ合えるアメリカで臨床経験を積みたい。そんな思いで、今はアメリカで医療活動ができるように日本の医師

医学部心臓血管外科学 **窪田 博教授**から

幾瀬君が稀な疾患に対して、積極的に関連論文を読み、理解を深めていく姿勢を見て学会発表を勧めました。疾患から学ぶ姿勢は、大変貴重です。ひいては豊かな知識となって患者さんへの治療に活かされることでしょう。これからも研鑽を積んでほしいと思います。

成績優秀学生

韓国語 6 級合格を目指して

外国語学部
 観光交流文化学科 2 年

はが こほる
芳賀 木春



この夏から韓国の高麗大学校に 1 年間留学します。

映画やドラマに表現されている韓国の文化に関心があり、高校 3 年生で韓国に留学しました。帰国を前に韓国の友人が「日本に対して悪いイメージしかなかった。でもコハルに出会って日本と言えばあなたが思い浮かぶようになった」と言ってくれたことがずっと心に残っています。杏林に進学したのは韓国留学ができるからです。歴史的な問題や領土問題とい

う壁があるのも確かですが、韓国は日本にとって良きライバルでもあると思います。日本と韓国の関係がより良くなるように私は出来ることを精いっぱい行いたいと思います。

今はコミュニケーションの基礎となる韓国語の勉強に力を入れています。目標は韓国語能力試験 6 級(最上級)合格です。韓国語を活かした就職も見据えながら留学でたくさんの方の事を吸収してきました。

外国語学部観光交流文化学科 **木崎 英司教授**から

芳賀さんは、ゼミナールでも中心的な役割を果たしています。また、将来は韓国語を活かして活躍するために、韓国への留学を決めました。何事においても自ら取り組む姿勢は他の学生の見本です。多くの学生が、彼女の積極性と行動力を真似して、自分の能力を最大に伸ばしてほしいものです。

とです。突然の訃報に、関係者一同驚きと悲しみを禁じませんでした。

外国語学部卒業生に学部ができたばかりの頃の話を見ると、やはり完成したばかりの学部ということで、教員・学生と



故・松田進勇初代理事長の遺影を掲げて行われた昭和 63 年度入学式

も歴史を築いていくという熱意・雰囲気も溢れていたということです。

当時の懐かしい講義としては、北村宗彬先生の「英語発音聴取」、鈴木孝夫先生の「言語と文化」、國松昭先生の「文学」、

川地美子先生の「英米文学史」の授業などがありました。

また開設当初から現在まで続いている留学プログラムのオックスフォード研修は今年度で 22 回目になります。この研修に参加した卒業生も多く、学生時代にこの研修に参加し、年を経て教師となり研修の引率をした教員もいます。

2007 年には外国語学部創設 20 周年を記念してシンポジウムが行われ、その締めくくりの挨拶として金田一秀穂教授が「今まで送り出した 5,000 人の卒業生が私たちの財産です」と述べましたが、さらに増えていった卒業生や現在在籍中の学生も含めて、杏林魂を宿した一人ひとりがまさに学園の大きな財産といえましょう。



外国語学部開学最初のオリエンテーションでの金田一春彦先生 (金田一秀穂先生のご尊父) 特別講演 (1988 年 4 月 13 日) 昭和 63 年度外国語学部入試合格発表の様子 (上) 椎名和男先生を囲んでのゼミ風景 (下)

※ 1988 年の出来事

- ▶北海道と本州を結ぶ大動脈、青函トンネル (全長 53.85km、海面下 240m) が営業を開始。
- ▶昭和天皇のご容体が悪化。自粛ムードにより、各種イベント等が中止に。
- ▶FC ソフト・ドラゴンクエスト III 発売。各地の店舗で行列ができるなど、社会現象を巻き起こす。
- ▶竹下首相のもと全国の市町村に地方交付税として一律 1 億円を支給するふるさと創生事業が実施される。
- ▶リクルート事件発生。など

よい就職とは

学生の就職活動は依然として大手企業志向の傾向がありますが、ここにきて中堅・中小企業の中から「自分のやりたい仕事ができる会社」「これから伸びそうな会社」を選択する学生が増えてきています。

ここでご紹介する住宅設備機器の中堅総合商社、小泉機器工業株式会社（1946年創業。資本金7,429万円、本社東京都世田谷区、従業員数250名）は、5年前から毎年杏林大生を採用、一人も中途退職することなく全員元気に働いています。

生き生きと働いている理由は何か、今後の就活支援の参考にしたいと、本学キャリアサポートセンターの齋藤幸雄室長と清水みさ子課長が6月25日に同社を訪問し、企業理念や人材育成の方針、杏林卒業生たちの仕事ぶりなどについて、総務人事部 山岸伸二部長、若林拓係長、大場菜月さんにお話を伺いました。

人材育成方針 「人間力を高める 入社1年間で3回の研修」

山岸：新入社員に対しては、顧客満足を図るためのスピード感、目標を定め遂行する志、各自の責任を果たし会社や社会に貢献する、商品の知識・がんばろうとする気持ち・体力・情熱を総合した人間力を備えて活動することを期待しています。

大場：そのために入社後1年の間に3回研修を受けてもらいます。第1次研修は基本的マナーの習得です。第2次研修で商品を理解するためにTOTOのショールームを見学し、その商品をどう売っていくかの計画案を作成して各人が発表します。第3次研修は設備や商品の知識をさらに深めるためにメーカーの講習会を受講します。

山岸：中堅の社員に対しては、忘れがちな営業マナーなどの研修を再度行います。彼らは先輩社員として何倍も勉強して後輩のお手本になるように努力しています。そうしないと、どんどん後輩に抜かされてしまう。このように絶えずプレッシャーのなかで、緊張感を持って仕事をしています。この意味で新入社員は大きな刺激剤になります。

採用枠は年によって変わります。これはわが社がリストラなどはせず、必要な人材を必要な数しか採用しないからです。当社は、今後何十年間も共に働く仲間として人材育成に真剣に取り組んでいます。

齋藤：入社後の合宿研修ではどのようなことをされているのですか。

山岸：いまの大学生は、既にビジネスマナーの知識はあります。研修では、その知っている段階から実践にもっていくことを学びます。世の中が変わっても、「人」のかわりなしに仕事はできません。3泊4日の研修中は新聞、テレビなどの情報源から隔離し、携帯電話等の私物もすべて預かります。自分たちの発する言葉を頼りに集団生活のなかで徹底的にコミュニケーション能力を養います。



新入社員研修の様子

大場：自ら行動しないと何とも進まない。でも自分から話をすればお互い仲良くなれ、理解し合えるのです。グループで取り組む課題もチームワークで乗り切ることができるのです。

山岸：基本的なことを体得するのです。「間違ってしまった」「報告を忘れていた」など自分のミスが全体に関わってくるのがわかると、皆真剣になり、やるぞという雰囲気全体に伝わって盛り上がっていくわけです。

大場：研修生は日を追ってコミュニケーションを意識するようになります。最終日には課題について発表するので成果がわかります。「これなら営業所に行っても大丈夫」と思えるほど皆しっかりしてきます。研修後に営業所に配属されますが、そのときは1営業所に一人です。心細いかもしれませんが、4日間でこれだけがんばれた、やればできる、そういう自信が後押しになるようです。

齋藤：成果というゴールが見える研修なのですね。

学生に求めるもの 「先人の志を学ぼう」

齋藤：近年、大学は高等専門教育機関として学生に専門教育を教えるだけでなく、社会性、社会道徳などの領域をカバーすることも使命の一つになっています。

企業から見て、卒業して社会に出るにはここが足りないという点があればお聞かせください。

私は緊張して自分の意見をうまく伝えることができないところがあるので、先輩は指導に苦労されていると思います。

入社して1年が経ち、今はいろいろなことに慣れてきました。緊張してうまくいかないことはだいぶ減りました。業務で扱う調べものの量は膨大ですが、きちんと正確に注意をして取り組んでいます。

私が見落としてしまい、問題が起きてしまったら、会社が築いてきた信頼を取り戻すのは大変です。そのために営業所の方が何倍も努力をしなくてははいけません。常々責任を意欲して仕事をしています。

小泉機器工業株式会社

小泉機器工業株式会社：産業用・家庭用住宅設備機器の総合会社。東京・府中市の管理本部、小泉機器工業株式会社として東京、神奈川県、山梨に20営業所と営業推進部、埼玉・静岡・栃木・伊東にサンケイ機器株式会社として本社を含め14営業所、東京、神奈川の2物流センターによりサンケイグループを構成。



サンケイグループ代表 代表取締役 小野俊雄

平成20年から杏林大の学生さんを17名採用しておりますが、全員元気で活躍されています。先日の週刊誌に3年経って35%の人が転職しているとの記事がありました。特に私どもの会社の待遇が良いわけではありません。世間並みの普通の待遇です。強いて申し上げれば、経営理念と30年ほど前より行っている新入社員教育でしょうか。

我々の経営理念は、「馬上行動」「高い志を持とう」「責任」「人間力を高めよう～知力、気力、体力、情熱」です。

研修は君達が飛び立つ社会は甘くないぞ、その中へ勇気を持って飛び込む

- 「馬上行動」 世の中は目まぐるしく変化している。変化に対応するには馬と一緒に走り続けることが必要。立ち止まれば同じものしか見えない。
- 「高い志を持とう」 これからの社会生活の中で大切なことは自分の志をしっかり持つこと。しまりのないただ漫然と毎日を過ごせば必ず挫折する。希望を持って行動せよ。
- 「責任」 ひとり一人が「自分の責任」を果たせばそのチームの目標は達成できる。
- 「人間力を高めよう」 知力、気力、体力、情熱を指して人間力という。社会生活はすべて人間力の勝負と心得よ。

大場：生き方や志について考えることが大切です。当グループの小野代表は歴史小説や自伝を読むことを薦めています。先人から学ぶことは大切で、読んで得たものの見方や考え方はいつか役に立ちます。また、目標を持ってやっている人とそうでない人は明らかに違いが出てきます。代表は社員に対して日頃から仕事をやる以上は情熱を持って取り組んでほしいと言っています。目標を決めたら、それに向かって情熱をもって取り組むことが大切ですね。

(小野代表が推奨している本：北方謙三『水滸伝』、高橋克彦『火怨』、『炎立つ』、浅田次郎『壬生義士伝』、司馬遼太郎『坂の上の雲』、童門冬二『蒲生氏郷』、『上杉鷹山』)

杏林の卒業生について 「その素直さを大切に」

山岸：杏林の卒業生は与えられたことに対して一生懸命取り組みます。やはり素直さは一番かわいがられます。また、自分の立ち位置がわかっている、その中でがんばっていると感じます。

私たちは入社前の説明会で、大学での専門知識が必ずしも職場で活かせるわけではないと伝えており、それを納得した人に入社してもらいます。後で話を聞いていただく杏林の卒業生の平岡さんや金丸さんは、大学では会計学や外国語を専門に学んでいました。いま彼らが担当し

ている業務は法律や商品の管理に関するのですが、しっかり対応しています。

杏林の卒業生は仕事で不安な面ばかりに気が向いてしまうのではなくて、いい面を見つけようとしています。これは他大学出身者のケースですが、必ずしも望んで入社したのではないこともあり、本当にこの会社でいいのか、と否定的に考える人もいますが、そうすると辞めてしまうことにもなります。でも、その時々で一生懸命考えて、取り組んでくれればなんとかなるのです。

若林：誰でも苦手な分野はあります。わからないことは聞いてくれれば、教えますので、大丈夫です。杏林の卒業生はそれをよくわかっている。だから欠点を他人に指摘されても素直に認めます。こういうことは仕事をやりやすくする大事な雰囲気です。

齋藤：一般論として最近の学生は消極的で、内向きという評価もあります。杏林の学生はどうでしょうか。

大場：当社はお客さん商売で、接客において人あたりのよさが大事です。杏林の卒業生は皆さん素直で、私から見ると話しやすい。営業所ではお客さんと気さくに話せることが大切です。入社したときはいろいろ心配な人もいます。しかし、入社し消極的とか内向きと思われた人も、営業所に配属され、お客さんと話しているうちにガラッと変わるようです。



平岡治樹さん

管理本部監査部 勤務
総合政策学部企業経営学科卒
(内藤ゼミナール)

総合政策学部では会計学を学びました。いまの仕事は法律と少し会計の範囲が入っています。入社前、「勉強しておくように」と分厚い資料を渡されましたがはっきりいって理解できませんでした。自分なりにインターネットで調べたりして理解しようとしたのですが、あとは入社後先輩に教えてもらうことにしました。

私は緊張して自分の意見をうまく伝えることができないところがあるので、先輩は指導に苦労されていると思います。

入社して1年が経ち、今はいろいろなことに慣れてきました。緊張してうまくいかないことはだいぶ減りました。業務で扱う調べものの量は膨大ですが、きちんと正確に注意をして取り組んでいます。

私が見落としてしまい、問題が起きてしまったら、会社が築いてきた信頼を取り戻すのは大変です。そのために営業所の方が何倍も努力をしなくてははいけません。常々責任を意欲して仕事をしています。

大学では英語教育、英語リーディング指導などを勉強していました。ここでの仕事は全く違い、最初はやはり不安でした。

はじめは営業事務職でした。営業事務は商品の知識が必要ですが、最初は本当に何もわからなくて、先輩からいろいろ教えていただきましたし、専門家のお客さんに、「これであってますか」と確認したりすることもありました。聞くこと、確認することは大事です。間違っ受注してしまうと大変なことになってしまいますから。

学生時代は似たような考えの友だちとしか付き合ってきませんでした。今はいろいろ考えたり、その考えを求められることも



金丸祐子さん

管理本部商品統括部 勤務
外国語学部英語学科卒
(谷口ゼミナール)

あります。多くの人とのお話から、たくさんの方の見方や考え方があることもわかるので積極的に人とかわらわろうと思っています。

最初の職場はベテランの前任者との入れ替わりでした。たくさん専門的なことを覚えなくてはならず引継ぎは大変でした。でも高い志を持って、私がかんばろうという気持ちになりました。



左からキャリアサポートセンター 齋藤幸雄室長、小泉機器工業総務人事部 山岸伸二部長、若林 拓係長、大場菜月さん

山岸：内面はしっかりしているのだろうけれど、うまくやっけていけるのかなと思う人も確かにいます。商売には不向きに見える人も、時間はかかるけれどだんだん味が出てきます。

杏林の卒業生は自分の置かれている環境でどうしたら自分にとって居心地がよくなるか、自然に工夫しているように思います。そういうことをおそらく大学の教育の中で、身につけてきたのではないかと、言い換えれば、そういう環境が杏林大学にあるのではと思っています。

よい就職とは 企業とのミスマッチをなくす

齋藤：新入社員の離職率が社会問題にもなっています。何か取り組まれていることはありますか。

大場：会社説明会では学生には裏表なくすべてを説明します。それで納得いただいて面接を受け、入社してもらいます。

山岸：採用試験にはいろいろな学部の方が受けに来ます。先ほどもお話ししましたが、大学で学んだ専門知識が活かせないかもしれないが、それでいいですか、と必ず確認します。

残念なことですが、実は別にやりたいことがあるのに、とりあえず入社した人が何人かいます。仕事に対して高い志を持つことが大事です。しかも自分の現実、現状をしっかりと認識することは大事です。“あこがれ”に気持ちがいつてしまっは困ります。

杏林の卒業生ではありませんが、トップクラスで入社して研修後すぐに来なくなる人もいました。

彼の場合は、就活環境が厳しい中で親の勧めもあり一番初めに内定した当社に決めてしまった。でも自分より成績が悪い学生がいい会社に入ったのを聞き、どうすべきか迷っていたと言うのです。新人研修後、悩みがピークになったのですね。結局、親の意見で決めてしまうということになる。

社会人生活は長い。本当にやりたい仕事はこれではないと疑問を持つと、もうそこでは働けません。信頼できる会社を自分の目で確かめ、決めたらその場所まで一生懸命やる必要があります。

齋藤：今日はありがとうございました。今後ともご指導のほどよろしくお祈いします。

卒業生リレー

人の命を救う仕事がしたい 南スーダンで人道支援活動

かけやま たけし
景山 健
(外国語学部 2007年卒)

今年の1月、アフリカ・南スーダンとエチオピアの国境に、民族同士の争いから逃れてきた国内避難民約36,000人が押し寄せました。着の身着のまま逃げた避難民は木の下で身を寄せ合い、木の実と井戸水で飢えをしのいでいました。私は、彼らに対する水や衛生分野の支援計画を実行するため、国連スーダンミッションのヘリコプターで現地に向かいました。現地入りして活動していると、避難民の女性が次々に集まり、「本当にありがとうございます」と命を救われたような表情で話しかけてきました。初めは戸惑いましたが、この言葉が今でも忘れられず、心の支えになっています。

私が、この仕事に就こうと思ったきっかけは大学時代に遡ります。高校まで続けていた野球を辞めたので、大学入学と同時に将来について考えるようになりました。自分の人生をかけるのだから、「人のためになる仕事、人の命を救う仕事」がしたいと思いはじめたころ、難民問題がメディアで取り上げられているのを目にしました。コンゴ、シエラレオネ、東ティモールなどでおびただしい数の人が亡くなっている現実を知り、彼らを助ける仕事がしたいと思いました。



避難民から聞き取り調査をする景山氏(右手前)。スーダン帰還民への水・衛生支援、国内避難民への物資等配布支援を行う

いまでこそ英語はだいぶ達しましたが、高校まで野球一筋でしたので、大学一年生の時の私の英語の成績はお粗末でした。英語の力をつけるため、朝から晩まで図書館で勉強し、予備校に通い、夏休みは予備校に住んでいるのではないかと、というくらい勉強しました。何度も心がくじけそうになりましたが大学卒業後、アメリカの大学院に進学しました。緊急支援の中でも、特に興味があった財務を専攻しました。民間企業で財務の実務経験を積んだのち、いま、南スーダンで緊急人道支援を行っています。

一度しかない人生です。自分が心底望んでいる生き方、情熱をもって取り組めることは何かを考え続け、探し続けよう。

私は、大学生時代にインドのマイクロファイナンス機関で働いたり、大学院や他学部の科目履修をしたり、先輩方の話を聞いたり、国際会議やセミナーに足を運んだりしながら、今の仕事にたどり着きました。そうやって模索していく先に、「人生って面白い！」と心から感動できる日々が待っているはずですよ。

略歴：杏林大学外国語学部卒、渡辺光恵ゼミ。モントレー国際大学院大学卒。MBA。2009年、株式会社ワークスアプリケーションズ入社。2011年より特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン勤務

杏林大学出身者の声

平澤成周さん (外国語学部卒、相模大野営業所勤務) 職場の皆さんはとても明るく、困ったときにはいつでも助けてくれる先輩がいます。

小林加奈さん (外国語学部卒、川崎営業所勤務) 少人数ですがアットホームな雰囲気の職場です。

丹下大輔さん (外国語学部卒、中野営業所勤務) お客様とのやり取りも多く、受注から納品まで幅広く仕事をしています。

栗原正樹さん (外国語学部卒、川崎営業所勤務) 発送業務や営業をしています。優しい先輩に囲まれ仕事のしやすい環境です。

望月 遼さん (外国語学部卒、西東京営業所勤務) 配達や接客、最近は営業の仕事も覚えているところです。

上野美弥子さん (外国語学部卒、相模原営業所勤務) お客様や取引先の方も声をかけてくださる楽しい職場です。

高儀和範さん (総合政策学部卒、湘南営業所勤務) 困っているときはお互いフォローし合う職場なので、安心して仕事ができます。

キャリアサポートセンターから

小泉機器工業に就職を決めた卒業生の多くは、当初その事業内容も自分が行うべき仕事も正しく理解して受験していたとはいえません。大学で学んだこととの接点を見出すことができないと戸惑う様子もありました。

しかし、会社の良い点、悪い点を誠実に語っていただける企業の姿勢に共感し、また採用試験時から入社後も多くの方に見守られ育てていただいていることを実感できていることが、今につながっていると感じています。

現在は、1年にわたる厳しい就職活動

齋藤有司さん (総合政策学部卒、川越営業所勤務) 商品配達業務をしています。上司や先輩とコミュニケーションがとりやすい職場です。

廣濱恵実さん (総合政策学部卒、湘南営業所勤務) 伝票処理や接客をしています。分からない点は先輩がわかりやすく説明してくれます。

村田由佳さん (外国語学部卒、所沢営業所勤務) 1日1日やりがいを感じるができる職場です。

岩佐勇輝さん (総合政策学部卒、商品統括部勤務) 会社の一番の魅力は社員の人間です。早く仕事を覚えたいです。

石田竜太さん (総合政策学部卒、吉祥寺営業所勤務) お客様が気持ちよと感じられるような環境にしようと日々努力しています。

関根圭介さん (外国語学部卒、東京西営業所勤務) 1年目なので発送業務の手伝いや電話対応をしています。和気あいあいとした職場です。

遠藤智江さん (外国語学部卒、練馬営業所勤務) 最近は商品の発注などもするようになりました。毎日楽しく仕事をしています。

野崎愛美さん (外国語学部卒、鶴ヶ島営業所勤務) お客様とのかかわりが多い職場です。笑顔で心がけてがんばっています。

を経てようやく得た就職先を3年以内に3割以上が退職する時代です。退職に至るまでには様々な理由が考えられますが、ひとつには学生本人が就職先をどの程度納得して入社を決定したかが大きく関わると私たちは考えています。

魅力的な企業は世の中に多くあります。学生はたくさんある企業から、よい就職先はどこかと日々めぐるしく活動を行っています。

私たちは学生自身がその選択に納得し、生き生きと活躍できる場を見つけられるよう支援を続けてまいります。

(キャリアサポートセンター課長 清水みさ子)

在学生リレー エンジョイ☆杏林 Life

杏林大学での勉強と 課外活動は最高の思い出

よう らくえい
外国語学部 楊 楽穎
(天津外国語大学交換留学生)

私は去年9月に初めて日本を訪れ、交換留学生として杏林大学で一年間の留学生生活を始めました。

杏林大学には日中同時通訳界で著名な塚本慶一教授をはじめ、すばらしい講師陣が揃っていて、日中通訳翻訳プログラムが設けられていたので、私は躊躇なく杏林大学を選びました。

日中・中日通訳翻訳概論や演習などの授業では、高いレベルの学生とともに切磋琢磨しています。優秀な先生たちと触れ合うことで、日本語に磨きをかけ、日本の文化や通訳に関するいろいろな知識も教わっています。そして、先生方が目をかけてくださるので安心して大学生活を送ることが出来ます。

すぐ近くの寮から大学に行く途中、警備員さんがここにこしながら一人ひとりの学生に挨拶をしてくれることにも感動しました。おかげさまで、勉強と生活を楽しく両立させることができています。

勉強のほかに、多くの課外活動にも参加することで充実した留学生生活を過ごしています。野菜ソムリエの方を講師に招いた料理教室では、みんなで協力して美味しい料理をつくることができ、健康的な食習慣も学ぶことができました。参加



している学生塾の企画会議では、みんなで知恵を絞って、意見を交換し、学生に役に立つ企画を提案しています。

日本の伝統的な演劇、歌舞伎も鑑賞しました。歌舞伎役者のたゆまぬ精進と磨き抜かれた演技に感心し、歌舞伎をはじめ日本の伝統文化をもっと知りたくなりました。

日本ならではのお祭りも大好きです。これは日本でしか体験できないことです。宮下町の人達と一緒に汗をかきながら力を合わせて御神輿を担いだり、地域に伝わる話を聞かせていただき、とても楽しかったです。

一年の留学生活があっという間に過ぎようとしています。日本に来る前に、一人で生活できるかどうか、日本人とうまく交流できるか不安もありましたが、今は胸を張って杏林大学を選んで本当によかったと言えます。ここで、たくさんの友達ができ、いい思い出もいっぱい作ることができました。残り少ない留学生生活を最後まで楽しみたいと思っています。



学部・大学院トピックス

医学部

医学教育法のイノベーション バーチャル顕微鏡の病理学実習への応用

医学生は臨床医学を学ぶまえに、病理学で病気のメカニズムを学びます。病気のメカニズムを学ぶ基礎として、病気による細胞や組織の変化(=病変)を観察し認識できることが大切です。このため病理学では顕微鏡を用いる実習が行われます。しかし、この顕微鏡を用いる実習は学生にとって難解です。自分の目で病変が認識でき、病気のメカニズムに考えが及ぶようになるには時間がかかります。

画像技術の進歩により、顕微鏡を用いずに細胞や組織をみるバーチャル顕微鏡が開発されたことから、昨年から病理学実習にバーチャル顕微鏡を応用し始めました。バーチャル顕微鏡では、組織標本をデジタル画像としてパソコンに改めて取込み記録し、そのコピー画像を、顕微鏡を覗くように拡大・縮小して見ることができます。顕微鏡と違ってパソコン画



実習は CBT (Computer Based Testing) 用につくられた看護・医学教育研究棟の PC 室で行う。



100 人以上の学生が様々な病理標本の顕微鏡画像を、テレビゲーム感覚で短時間に観察することが可能。

面は、多人数で一緒に見ることができ、教師の説明が何処を指しているのか、学生が疑問をもっているのはどこかが判りやすく、教育効果は高いようです。学生同士の議論も活発で、どうして病変が生じるのかという病気のメカニズムに迫る質問も聞かれるようになりました。

(病理学教室教授 菅間 博)

世界三大感染症マラリアを追って

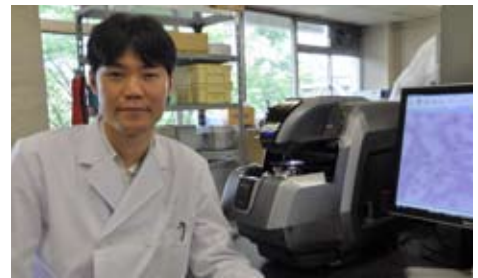
科学技術の分野で世界的に権威のある「日本国際賞」を主催する国際科学技術財団は、将来を嘱望される若手研究者の独創的研究に対して助成を行っています。昨年度、感染症学の井上信一助教の研究「マラリア原虫感染による宿主造血細胞の制御機構とミトコンドリア関連性の解明」が厳しい審査を経て、助成を受けました。

その研究は、マラリア原虫感染が引き起こす血球供給細胞(造血細胞)の機能変化を遺伝子レベルで解析することで、マラリアの感染防御や病態悪化に関わる免疫細胞の産生制御メカニズムを解明しようとするものです。

井上助教は研究助成を受けたことにより、今年4月、天皇・皇后両陛下も臨席された「日本国際賞」の授賞式に招待される栄に浴しました。

井上助教は指導教授である小林富美恵教授とともに、自然免疫リンパ球の一種であるガンマデルタ T 細胞の働きがマラリアに対する防御的な免疫反応に必須であることを解明しました。

この研究成果が米国の権威ある科学雑誌 米国科学アカデミー紀要「Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America (PNAS)」の電子版(2012年7月9日付)に掲載されました。



感染症学寄生虫部門助教 井上信一

マラリアは世界で毎年2億人以上の感染者が報告されていて、HIV/エイズと結核と共に世界三大感染症として恐れられています。日本では過去の病気のように思われていますが、実際は感染流行地への海外渡航などにより毎年80例前後が報告されています。

基礎研究は、直ちに人の役に立つものではありませんが、その積み重ねが将来の科学技術を支えることとなります。私も、マラリア撲滅のための科学技術の発展に少しでも貢献出来ればと、日々研究に勤しんでいます。

保健学部

2013年4月 診療放射線技術学科 開設



医学部放射線科および病院放射線部の協力を得て2013年4月、診療放射線技術学科を新設します。

医療を取り巻く環境は大きく変化し、大学病院を始めとする主要な病院ではチーム医療の考え方が進み、コメディカルの役割が益々大きくなっています。

これは診療放射線技師にも言えることです。病院で診療放射線技師が取り扱う診断機器・治療機器は日進月歩で、より精密で高度になっています。それらの機器の取り扱いには、高い情報処理能力と高度な専門的知識が求められています。

一方、乳癌検査の一つであるマンモグ

ラフィ検査が広まりを見せるなど、医療を受ける患者さんは年齢・性別・病気の種類をはじめ、さまざまな状況にある多種多様な方々です。

患者さん一人ひとりに対応するには、専門知識だけではなく、社会の一般常識も含めた幅広い教養を身につけていることが必要とされます。

医療系の教育は医療系だけで終わるものではありません。杏林大学の特長を活かして、総合政策学部、外国語学部と連携をはかり、社会人として模範となる診療放射線技師の養成を進めていきます。

(保健学部長 大瀧 純一)

臨床検査技術学科 国家試験対策の取り組み

臨床検査技術学科では東克己教授のもと3年前から従来行ってきた国試対策メニューに“新対策”を導入しました。

この新対策の柱は、成績が不振な学生への学習支援の強化です。まず、支援の必要な学生を3年生までの成績から特定します。当該学生は、4月から7月まで主要8科目の「ベーシックセミナー」で基礎知識の定着をはかります。9月からは「臨床病態学演習」や少人数での補習で苦手科目を克服します。

この他にも補講、個人面談、模擬試験、保護者への報告等々を行い、ほぼ10カ月間、常に学生を刺激し続けます。

とくに主要科目を受け持つ教員には大き

な負担となりますが、その成果は国試合格率のアップとなって現れました。新対策前の2009年度は74.1%でしたが、新対策実施後の2010年度は85.4%、2011年度は100%。全員合格は臨床検査技術学科の30年間で初めてのことです。

国試の結果によっては就職内定も取り消されてしまう厳しさがありますが、それを避けることができ、本人にも採用先にも責任を果たせたと思っています。

今年度も後半、国家試験免許の取得を目指す学科の当たりの責任を果たしたいと教員一同考えています。

(臨床検査教育学准教授 宮澤 博)

キャンパス情報⑧

株式会社 文光堂書店



文光堂書店は明治26年創業の医学書専門店です。医学、看護学、医療関係の和書・洋書を取り揃える。日本医書出版協会認定店。本店(文京区本郷5丁目)のほか杏林大、板橋日大、日医大、埼玉医大などに店舗をもつ。本学医学部店は2006年6月にリニューアルオープン。第1病棟地下1階から現在の講義棟2階に店舗を移しました。店長の谷実さんにお話を伺いました。

お仕事の内容について——

杏林大学店での勤務は11年になります。午前10時の開店からしばらくすると納品があるので、値段のチェックや注文品か販売品かの仕分けをします。昼頃が学生さんや研修医が一番混む時間帯です。午後は医学図書館など学内の発注元に納品に回ったり、先生方などから受けた発注書を整理し、翌日の納品に備えます。

取り扱っている本について——

教科書、指定書のほか医学や看護学に関する書籍や雑誌を常時4000冊ほど置いています。医学部生に絶大な支持を得ている内科学の教科書『朝倉内科学』、『ハリソン内科学』など一生モノの本や受験英語の単語集『でる単』ならぬ、『骨単』『肉単』『脳単』『臓単』『ツボ単』といった解剖学の試験対策用英単語集もあります。診療や手術に関するDVD、医学の歴史などをマンガ風に紹介する本のほか、ナース録や大型ホチキス、ちょっとした文具も置いています。

学生とのエピソード——

看護の学生さんも多くいらっしゃいますが、医学部の学生さんとは6年間のお付き合いなので思い出に残る学生もいます。学食と一緒に食事をすることもありますし、「国家試験に合格しました」「研修医として外の病院に行くことにしました」「研修を終えてまた戻ってきました」などの報告をいた



左から店長の谷実さん、小山留美子さん、寺田三津子さん。だく時は、学生さんの成長を感じます。みんな良き医師に育って欲しいと思っていますので、何気ない会話や本のアドバイスをとおして見守っていただければと思っています。

教員も利用されますね——

今日はお見えにならないのかな、と思うくらい毎日のように足を運んでくださる先生もいます。学生のころから利用していただいている先生などは、立派になられたな、と心の中で頼もしく思ったりします。

学生の成長を感じながらの仕事はやりがいでもあります。皆さんに気軽に利用していただき、いつでも声をかけていただけるような存在でありたいと思っています。



文光堂書店杏林大医学部店(医学部講義棟2階)
営業時間: 月曜~金曜 午前10:00~午後5:30
定休日: 土曜・日曜・祝日・年末年始

総合政策学部

総合政策学部表彰



八王子キャンパス F 棟 353 教室で 6 月 13 日 (水)、総合政策学部賞の表彰式が行われました。

この賞は総合政策学部の中で模範となる学生を表彰し授与しているもので、今年で 4 回目になります。

表彰の対象となるのは、2 年生以上の各学科各学年で優秀な学業成績を取った学生のほか、クラブ活動などを通して学部に貢献した学生、杏園祭のゼミナール展示で最も優秀だったゼミ、それにゼミナール連絡会主催の学部長杯争奪スポーツ大会で優勝・準優勝したゼミなどです。

今回、成績優秀者以外の学部貢献部門では、法学検定や日商簿記検定の合格者や「八王子キャンパス学生塾」の企画運営で功績のあった学生、総合政策学部学生向けのニュースレター「かわら版」の制作で中心的な役割を果たした学生など 24 名が選ばれました。

表彰式では賞状とともに、「学生生活の時間を有意義に過ごしてほしい」との学部側からの願いを込めて時計が記念品として贈られました。

●学部貢献 (行事、クラブ活動、資格取得等)

荒川直樹、飯山時空、遠藤光、大野七奈、神谷 洸、熊倉康太、桑田寛子、斉藤瞬也、高田恵佳、船越聖奈、山本 駿、吉田雅人、勝木健太郎、中島隆文、原拓也、横内貴成	4 年
川口美穂、鈴木大輔、春山恭平、廣田啓介、矢澤直拓、横山源、鈴木成彬	3 年
栗田亜純	2 年

●成績優秀者

総合政策学科	
山田直輝、村上麟太郎、遠藤光	4 年
高原彪吾、帆足美咲、櫻庭志徳	3 年
藤沢慎也、坂上直昭、鍋山純輝	2 年
企業経営学科	
梅桂、付静、染谷英里華	4 年
飯沼和也、古山有則、田中美穂	3 年
山田花菜、並木李虹、宮崎知里	2 年

ゼミナール紹介 企業経営学科 荒井ゼミ

総合政策学部には現在 35 のゼミがあります。学生は学習をとおして、大学生活におけるかけがえのない人間関係をも育んでいます。

その中で、2、3 年生 7 人が「グローバル・イノベーション戦略」について研究している荒井将志講師のゼミナールを訪ねました。



海外の研究とプレゼンテーションの事例を 3 年生に見せる荒井講師 (左手前)。討論会にむけた準備は全て学生中心に行われるが、視野が狭くならないように多面的な可能性について荒井講師がアドバイスする。

荒井将志講師より

通常の大教室講義では、学生と教員のコミュニケーションが一方通行になりがちですが、少人数クラスのゼミナールではインタラクティブに授業を進めることができます。ゼミナールは少人数クラスだから教員が学生を懇切丁寧に手取り足取り教えることができる、という側面は重要ですが、当ゼミでは少人数の学生グループによる主体的な活動を特に奨励しています。

上述の通り、本ゼミでは 2 年生には 9 月の日経 BP インナー大会に参加、3 年生には 9 月に台湾・長庚大学での英語討論会と 12 月に関東 10 大学・IB インカレへの論文作成とプレゼン大会へ参加という活躍の場を設定しました。ゼミ生は、アイ

ゼミナール (演習) : 一人の指導教員のもと少人数の学生が特定のテーマについて研究、討論、発表するもので、「ゼミ」と略称される。

海外討論会

9 月 3 日から 7 日の日程で台湾・台北を訪れ、3 年生は長庚大学 (Chang Gung University) 経営管理学科の学生と討論会を行います。討論会の前に「コンセンサス標準の限界」というテーマで英語のプレゼンテーションを行います。このテーマは、これまで研究してきた多国籍企業やグローバルビジネスについてさらに理解を深めたいと 3 年生が選んだものです。夏休みは資料や発表の準備に追われています。



9 月のプレゼン大会にむけて準備をする 2 年生。

デアを出し合って、何度も議論を重ね、パワーポイントの作成や論文作成を行っています。ゼミ時間外の活動も珍しくはありません。本当に目を見張るほどに素晴らしい積極性と行動力、団結力を発揮してくれています。

外国語学部

クライストチャーチ工科大学交換留学プログラム始まる

(CPIT : Christchurch Polytechnic Institute of Technology)

本学は 2011 年にクライストチャーチ工科大学と交換留学協定を締結しました。プログラムは、1 年間の交換留学として、本学から 1 名の学生を派遣し、CPIT から 1 名の学生を受け入れるものです。本学の学生は、CPIT でビジネスやホスピタリティなどの授業のほか、集中英語コースで英語力の向上を図ります。

留学先の学費、および滞在費 (ホームステイ費用) は CPIT との交換留学協



塩野早希

英語学科 2 年

留学期間 : 2012 年 8 月

– 2013 年 6 月

留学には以前から興味がありました。坂本ロビン先生の薦めもあって留学を決めました。8 月 17 日から 11 ヶ月間、CPIT の交換留学プログラムに参加します。留学先ではホームステイです。早く現地の生活に慣れて、私と同じように留学してきた学生や現地の学生と仲良くなり、旅行などもしてみたいと思います。

大学では一クラス 7 人程度のインテンシブクラス (※) にいるので、ネイティブの先生とたくさん会話ができます。また北村一真先生の「英語文法」や岩本和良先生の PEP で英語の力をつけることができました。

初めての海外生活なので不安もありますが、これまで勉強してきたことを試したり、いろいろ吸収できるよい機会と楽しみにしています。

※ 英語学科では 1、2 年次に集中して英語を学ぶインテンシブクラスを設置し、留学を見ずえ、さまざまな角度から学生の英語力の向上を図っています。



クライストチャーチ工科大学 : 1906 年創立の歴史と伝統のあるニュージーランド国立の教育機関。25,000 人の学生が学び、世界 50 カ国以上から留学生を受け入れている。

定に基づき免除されます。

今年度の交換留学生 塩野早希さんとターナー スティール ジェイコブ シンクレアさんに聞きました。

ターナー スティール ジェイコブ シンクレア

外国語学科

留学期間 : 2012 年 4 月

– 2013 年 2 月



僕の家庭はホストファミリーとして留学生をよく受け入れていたので、彼らと接しているうちに留学してみたいと思うようになりました。

日本を紹介するテレビを観て日本に関心を持ち、高校生のとき滋賀県の高校に 10 ヶ月間留学しました。今回、大学の日本語の先生の薦めもあり、再び日本留学を決めました。

将来は飲食店を経営したいと思っているので、サービス産業の経営全般を学ぶ授業「サービス産業論」は面白いです。最近ダンス部に入りました。練習は難しいですが、学園祭のステージを見に来ています。

今は寮に住んでいてあまり得意ではない自炊をしています。ニュージーランドでは大学の周りはひたすら「自然」で、隣町までは自転車でも 4 時間もかかります。その点八王子キャンパスはすごく便利です。公私とも充実している留学生活は本当に毎日楽しいです。

留学と危機管理

有事に備えて外国語学部教員一丸となって取り組む

外国語学部には、海外での研修や交換留学など様々な海外学習プログラムがあり、昨年度は約 70 人の学生が参加しました。

留学中の安全管理は事前指導を含め十分配慮していますが、学内の体制を再確認するためのリスク対応訓練を 8 月 1 日に実施しました。

有事の際は、学生の生命を守り、精神的なケアを行うことが肝要です。国際交流センター長で外国語学部の塚本慶一教授は、「教員が一丸となって取り組み、非常に有意義な研修だった」と話しています。



教員は対策本部、渉外班、総務班、広報班、家族班等に分かれ、次々とする情報に対応 (上写真)。



4 時間にわたるリスク対応訓練の後半には、模擬家族説明会が行われた (下写真)。

大学院 医学研究科・保健学研究科

平成 24 年度 がんプロフェッショナル養成基盤推進プログラムに参加

医学部腫瘍内科学教授 古瀬 純司

文部科学省が推進するがんプロフェッショナル養成基盤推進プランに杏林大学も参加します。本事業の目的は、大学院教育を通じて「高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進する」ことにあり、東京女子医大、帝京大、駒澤大と共同でこの事業を行います (主幹は東京女子医大)。

本学は医学研究科に「都市型地域医療

専門医養成コース」と「臨床試験研究者養成コース」、保健学研究科に「がん看護専門看護師養成コース」を設置します。

また広く、医師、薬剤師、看護師、検査技師、放射線技師などを対象としたインテンシブコース「臨床試験コーディネーター養成コース」と「がん患者コーディネーター養成コース」を設置し、短期間に専門領域を学ぶカリキュラムを提供します。

保健学研究科看護学専攻 9 月より「インテンシブコース」スタート

保健学研究科看護学専攻は、がん看護の向上を目指し、「がん看護専門看護師養成コース」を設置しました。

このコースは従来の大学院の教育内容に、臨床病理学・臨床薬理学・フィジカルアセスメントなどの講義・演習科目を加えました。

さらになが看護に関する実習や専門科目を充実したカリキュラムに変更し、がん看護専門看護師の養成を目指します。

また、多くの看護師に短期間 (3 ヶ月) でがん看護を学んでいただくためのインテンシブコースを設置しました。ここでは、がん患者さんの症状マネジメントに必要な知識や技術、入院治療から在宅での療養生活を希望した際にスムーズに移行できるようコーディネートすること等を学びます。

(保健学部看護学科教授 中島 恵美子)

クラブ・サークル紹介

八王子・三鷹両キャンパスではあわせて87のクラブとサークルが活動しています。今回は、医学部硬式庭球部とStreet Trickersを紹介しします。

●医学部硬式庭球部 レギュラーの座を争い切磋琢磨

硬式庭球部員は男子25人、女子15人の計40人。三鷹キャンパスのテニスコートで日々練習を積んでいます。全体練習は週に2日ですが、自主練習として各自がそれぞれのペースでコートで汗を流しています。

硬式庭球部が参加する大会は、主に春の関東医科歯科リーグと夏の東日本医科学生体育大会(東医体)です。昨年度、男子は関東医科歯科リーグ3部で悲願の優勝を果たしました。入れ替え戦にも勝利し2部に昇格しました。女子は6部中5部に所属しています。男女ともに本年度も優勝を目指して戦っている最中です。

東医体は毎年8月に山中湖で行われます。トーナメント方式のため一度も負けられないシビアな戦いですが、2008年には3位に入賞しました。本年度も男女ともこの大会にエントリーしています。いまは、優勝を目指して日々練習に励んでいます。

関東医科歯科リーグ、東医体ともに団



体戦で行われるため、試合に参加できるのは男子7名、女子5名です。そのため部内ではレギュラーの座をかけて熱い戦いがくりひろげられます。実はこの戦いでも大会とは違った多くの名試合があるので。

これからも、よりよい戦績が残せるよう、そして活動を見守り、支えてくださる多くのOBの皆さまにより報告ができるよう部員一丸となって戦って参ります。

(硬式庭球部 主将 医学部4年 城野喬史)

●Street Trickers 手品でみんなを楽しませたい

Street Trickersは学内外で行われるイベントに参加して、様々な方に手品を楽しんでいただいています。また、手品を通して学生同士、特に留学生との交流も盛んに行っています。取り扱っている手品は主にクロスアップマジックと呼ばれる種類で、テーブルをはさんで目の前のお客さんにトランプやコインなど身近な物を使って演じる物です。

現在部員は、1年生から4年生まで22人。留学生も一緒に活動しています。

今年5月に、八王子駅周辺で行われた市内の大学生による合同学園祭「学生天国」に参加しました。初めて人前で手品をする1年生は、緊張感とともに、見せる感覚と楽しんでもらえる喜びを味わえたと思います。

6月には、学内で行われた留学生と日本人学生、教職員との「国際交流の集い」に参加して、1年生がステージマジックを披露しました。普段あまり取り扱わないステージマジックを披露するときは、クロスアップとは違った緊張と楽しさを感じます。それらを味わいながら、たくさんの学



生に驚きと不思議さを感じてもらえたと思います。

もちろん10月の学園祭にも参加します。この夏に腕を磨き、来場者の皆さんを引き付けることができるよう、日々仲良く練習しています。

今後も学内外で積極的に活動していきます。一人でも多くの方に私たちのマジックを見ていただきたいと思っています。

(Street Trickers 代表
外国語学部英語学科4年 和田理央)



国際交流の集いではたくさんの留学生がカードマジックを楽しみました。

数字で見る杏林大学 ⑧

526,342?

526,342冊(点)。これは杏林大学(看護専門学校と付属病院も含む)の図書館で所蔵している蔵書数です。この中には本の他、製本雑誌、AV資料、電子資料が含まれています。膨大な数の図

書館資料が、学生や教職員を含めた関係者の利用を待っています。

杏林大学図書館には3つの分館があります。三鷹キャンパスの医学分館の蔵書は267,116点、八王子キャンパスの人文・社会科学分館には165,419点、保健学分館には93,807点の資料があり、それぞれの専門分野に合わせた図書や雑誌、AV資料等が提供されています。大学図書館ですので、洋書も207,998点と多く、和書は318,344点です。講義を聴くだけより自発的な読書によれば2倍が記憶に残る、と言われているように、大学での学びの基本は講義+予習・復習による読書が効果的です。

さて、現代は電子化時代。図書館ではインターネットから利用できる32種類のデータベースを契約しています。主に雑誌や新聞など頻繁に更新があるものが中心で、中には、キーワードを登録しておく、更新のたびにお知らせがメールで届く便利なものもあります。上記とは別に、こうした電子ジャーナルは45,708タイトルあります。2010年は電子ブック元年といわれましたが、電子ブックも18,581タイトルが揃っています。

このような膨大な学習・研究資源を自らのために活かして、将来に飛躍できる学生生活を送られるよう願っています。



金田一 教授の研究室から ⑧

金田一秀穂(きんだいち ひでほ):1953年東京生まれ。東京外国語大学大学院修了。中国大連外語学院、米イェール大学、コロンビア大学などで日本語講師。1988年より杏林大学外国語学部で教鞭をとる。

文字と教育



ソクラテスは自分で文字を書くことをしなかった。だからソクラテスの言説はすべて、弟子のプラトンが、「先生はこのようにおっしゃった。」という言行録として残っているにすぎない。ソクラテスは本を書こうとしなかった。本を読むことを否定している。結果として、本を読まない今どきの若者と同じことになった。

ソクラテスは、本を読まない。彼は言う。本に書かれていることは、たとえ間違ったことでも、変えようとしなない。いつまでも同じことを語り続ける。質問したい部分があっても、ちっとも答えてくれない。本に書かれた文字は、生きていない。

さらに、人間の能力を衰えさせるとも言う。文字に書かれたことによって、覚える必要がなくなる。記憶力が衰えてしまう。

ソクラテスは、では、本を読まずに、どのように勉強したのか。おそらく、賢いと言われる人々に会いに行き、直接学んだのだろう。賢人たちの話を聞き、それを覚えた。理解しなければ覚えられないから、それは知的訓練として、優れたものであるにちがいない。さらに直接

質問し、反論し、考えをぶつけ合い、お互いにさらに知恵を深めあったにちがいない。対話は、彼にとって非常に有効な考える手段だった。

今、大学で学ぶべきことはあまりない。知識は本を読めば、簡単に得られる。インターネットは、その情報の質を見極められれば、もっと簡単である。覚えておく必要がない。とすると、大学の教室で、教師と学生が出席して、わざわざ授業を行うことの意味である。

ソクラテスの行った方法が、そこでのヒントになる。遠隔地とか入院患者とかであれば、テレビを使った遠隔授業も仕方がない。

しかし、学校に通って、教師の話を直接聞けることの価値を、もう一度思い出した方がいい。教師に問いかけ、考えることの方法を身につけること。

とても迂遠であっても、それが大学で学ぶことの意味であり、教えることの意味であるだろう。教室でしかできないことを行えなければ、教師は失格である。



健康ひとくちメモ ⑧

うつ病は 治りにくくなっている



うつ病が増えている。生涯を通じてうつ病になる可能性は10%を超えるとされている。とくに比較的若い世代のうつ病が増加している。

最近のうつ病の特徴は、治りにくくて気力がない状態が長期間続くことである。気力がないと仕事が行かず休んでしまうことも少なくない。ただし、当然だが、遊びは負担にならないので楽しむことができるから、週末にはゴルフやドライブをする。職場ではそれが不評で、「遊べるのなら仕事をしろ」と批判される。

治療者はそのような状態を未熟型とか現代型、新型うつ病と名付け、まるで新たなうつ病が登場したように扱ったりするので、若い世代のうつ病はますます際立ったものとなり、うつ病が治りにくくなったこと象徴として扱われてしまっている。

一方、最近のうつ病の薬(抗うつ薬)は以前の薬に比べて副作用が少ないという

利点はあるが、必ずしも完全寛解(症状がすっかりなくなった状態)をもたらすとはいえない。薬物療法がうつ病に完全寛解をもたらす率は約50%とされている。つまり、うつ病の半分の人には完全には治りきらないということである。

治らないうつ病が増え続けている中で、新たな治療法として最も注目されているのが経頭蓋磁気刺激療法である。

うつ病で機能障害が生じている脳の左あるいは右半球に磁気刺激を与え、機能を回復させるという治療法である。手前味噌だが、当教室の鬼頭伸輔講師がわが国ではこの治療法の第一人者である。彼はとくに難治性うつ病の治療で良い結果を得ている。

うつ病患者への理解が深まるとともに、経頭蓋磁気刺激療法など新たな治療法が導入されることによって、完全寛解に至る率が飛躍的に高くなることが期待される。

(古賀良彦:杏林大学医学部教授 精神神経科学)

こがよしこ 1946年東京生まれ。慶應義塾大学医学部卒業。76年杏林大学医学部精神神経科学教室入室、現在同教室主任教授。2010年より医学部付属看護専門学校校長を兼任。日本催眠学会理事長、日本プレインヘルス協会理事長などを務める。



2012年度 大学行事・イベント (平成24年9月~平成25年3月)

9月13日(木) 卒業式(春学期)	11月11日(日) 創立記念日
9月15日(土) 入学式(秋学期)	12月26日(水)~1月3日(木) 冬季休暇
9月18日(火) 授業開始	1月5日(土) 授業再開
10月6日(土)、7日(日) 杏園祭(八王子キャンパス)	1月21日(月) 授業終了
6日(土) 杏祭(三鷹キャンパス)	3月18日(月) 卒業式

*医学部の授業再開・終了、冬季休暇はこれとは異なります

編集を終えて

- 八王子キャンパスの「緑の下の力持ち」、施設課の森谷光由さんが7月に現役で亡くなられた。キャンパスを熟知し、除雪車の運転から消火栓のホースのたため方まで何もかもプロだった。山側の雑木林のすばらしさを教えていただいた。20年近く前、予想外の雪が降り出し「きょうは家に帰れない」と絶望した時、巧みなブレーキ操作で坂の下まで下ろしてくれた命の恩人でもある。若さゆえ学生が勢い余って破損した備品をいつも修理して下さった。「森谷さんのように何でも直せる人になりたい」と言った学生はまっ先に東北の被災地にボランティアに行っていました。ご冥福をお祈りいたします。(有)
- 日本人学生が海外で事件事故に巻き込まれる報道を耳にするドキリとします。外国語学部教員が一丸となつてのリスク対応訓練は真剣そのものだったとのこと(7面)。若者が気軽に海外に出かける昨今、全学的な取り組みであってもいいのではと…。(ふ)